事務事業マネージメントシート

真岡市行政評価システム 評価対象年度 平成27年度

作成日 平成28 年 05 月 12 日

事務	8事業名	中学	校 校 環境 緑 化 事業							<b>数</b>	(育委員会	学校教育課	施設係		
_	女策名	В	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり						-	0285-83-8182					
	施策名	2 小・中学校の教育の充実						電話番号		この主要事業					
		事業名								T _					
_									[	□単年度のみ					
冱	法令根拠 学校教育法第 5 条			F 	T T			事業期間		□ 単年度繰返(開始年度 S29 年度~)					
予	算科目	1.一般会計		10.教育費	3中学校	費	1 学校管理費		[	□ 期間限定複数年度(			年度~		
事	業概要	・各学 ・学校	校の希望により 関係緑化コン・		ける。 診加し優秀賞等を授覧		る。 の中から1~2校)受	賞している。	'						
1. <del>I</del>	見状把握の	部(1	)事務事業 <i>σ</i>	)目的と指標											
			, 3-323 3-214	7.70,710	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移										
① 手段(主な活動) 27年度実績						24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績) 28 年度(実績) 28 年度(見込)									
・環境緑化用原材料(木材・塗料等の購入、花壇制作等) ・除草剤、害虫駆除用薬剤の購入							材料購入額		千円	660	1,236	1,167	978	1,814	
が千月、百当年が日末月で持入											1,200				
20年1	度計画					I									
	受計画 度と同じ														
						オ									
0.11	- /	114				O 11 &									
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市内中学校							<u>指標(対象の大きさを</u> 名称	表す指標)の推		24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)	
							学校数		校		9	9	9	9	
③ 意[	図(この事業	によって	て、対象をどう	変えるのか)		オ:									
	かな学校環境			<i></i>		名称 単位 24 年度(実績) 25 年度(実績) 26 年度(実績) 27 年度(実績)									
						ア 緑	とコンクール等で受賞した	学校数	校	0.	0	0	0	0	
!															
④ 結果(どんな結果 (上位施策) に結びつけるのか)							成果指標(結果の達成	(度を表す指標)	)の推移						
良好な教育環境							名称	<b>必</b>		24 年度(実績)			27 年度(実績)	28年度(見込)	
							とコンクール等で受賞した	子校数の系計	校	15	15	15	15	15	
						イ ウ									
						エオ									
(2) 総事業費の推移 単位 24年度(実							25 年度(実績)		26 年度(実	績)	27年度(実績)		28 年度(見込)		
		国庫支出金 千円				0		0		0		0		0	
投入量	事業費	県支出金 地方債		千円 千円		0		0.		0		0		0	
	養   円		その他	千円	1	0		0		0		0		0	
量		±*##	一般財源 千円   費計 (A) 千円   職員従事人数 人			660		1,236		1,167		978		1,814	
						660 4		1,236		1,167	978 4		1,814		
	件 延べ業務時間 時間			時間		42		75		75		63	63		
			持計(B)	千円		176 836		305 1,541		317 1,484		264 1,242		264	
(3) =	•		スト(A)+(B) 化・市民意見	千円 B等		030		1,341		1,404		1,242		2,070	
(-,				環境緑化のために始	 めた。										
①この事務事業を開始 学校独目の環境緑化のために始めた。 したきっかけは何か?															
	ごろどんな約 されたのか。	怪緯で													
יותמוו	210729788														
②事	勝事業を取り	」巻く													
状況	(対象者や村	艮拠法													
	はどう変化 か、開始時期														
いは 5 年前と比べてと															
う変材	bったのか?														
③この事務事業に対し 以前から地域・PTAの協力を得て、学校緑化に							) <sub>o</sub>								
て関係者(住民、議会、 事業対象者、利害関係															
	対象者、利割 いからどんが														
や要望が寄せられてい るか?															

## 1 次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 ■結びついている □ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 市勢発展長期計画の中にある学校環境の整備等に結びつく。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 妥当である ■ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 良好な教育環境を整備することは、市の責務である。 ・税金を投入して達成する目的か? □ 適切である ③対象と意図の妥当性 □ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある 対象を限定・追加すべきか? — 学校施設の環境緑化が目的であり適切である。 ・意図を限定・拡充すべきか? □ 向上余地はない □ 向上余地がある 各学校で計画的に環境緑化に取り組んでいる。 ④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がない 影響がある ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 学校の環境美化が図れない。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? ⑦事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 原材料のみの購入費用であり、必要最小限の経費である。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 原材料費等の支払い事務のみであり、これ以上の削減は出来ない。 ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ---学校教育法第5条の規程により、受益者が負担するものではない。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 □ 継続 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🗌 適切 📗 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 □ 適切 □ 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)